

金融経済教育研究校 研究報告書

研究校名：かすみがうら市立下稲吉中学校
研究指定期間：令和6年4月～令和7年3月

1. 研究概要

【研究主題】

社会の変化に対応できる金融リテラシーを育む金融教育の在り方
～金融的事象を自分ごととして捉えることができる課題解決型授業の実践を通して～

【研究目標】

(1) 金融トラブルへの対応力の育成

金融に関する様々なトラブルを理解し、その回避方法について主体的に考える力を育む。

(2) 流通の仕組みと価格設定力の育成

地域の特産品を生かした商品開発を通して、流通の仕組みを理解し、適切な価格設定を行う力を育む。

【研究計画】

学年	教科	内容
全学年	学活	①「特別な手紙」を用いた導入 ・生徒に「あなたは特別な人材に選ばれました」といった架空の招待状（特別な手紙）を読み上げ、参加するかどうかを問いかけることで、詐欺を身近な問題として提示した。 ②実態の理解と感情移入 ・高齢者が振り込め詐欺に遭ったニュース記事を提示し、被害の大きさを説明した。さらに「もし自分の家族が被害に遭ったら」という視点で考えさせ、感情移入を促した。 ③原因の分析 ・なぜ人が騙されてしまうのか、心理的な要因（信頼しやすさ、情報への疎さなど）をペアワークで話し合いを行った。 ④お金に込められた願いを考える ・「年金制度」の仕組みを学び、さらに「おかねの作文」を音読することで、お金には人の願いや思いが込められていることを捉えた。 ⑤自分たちにできることの模索: ・詐欺を防ぐために自分たちに何ができるかをグループで協議し、学びを振り返った。
8年	家庭科	消費者トラブルの未然防止 ①消費者トラブルや悪質商法の種類と販売方法を知る ・実際に中学生が巻き込まれた消費者トラブルの事例を提示し、消費者トラブルが身近だということを気付けるようにした。 ②悪質商法を未然に防ぐためのロールプレイングのシナリオの作成 ・様々な種類の悪質商法に関するロールプレイングのシナリオ作りを通して、消費者が断り切れなくなる心理の表現の仕方や、人の心理を突いた誘い方を考えることで、お互いの心理を理解できるようにした。 ③原因の分析 ・ロールプレイングの発表を通して、様々な悪質商法に巻き込まれる原因を消費者の心理と悪質業者の心理を分析から考えた。 ④学びを実生活に生かすための振り返り ・消費者トラブルや悪質商法未然に防ぐための方法を検討し、学びを振り返った。
7年	総合	①東京のラーメン店を活用した導入 ・東京の1万円するラーメンを紹介し、なぜこの価格設定になっているのかを考えさせ、価格を決める際に考慮されているポイントに気付かせた。

		②焦点化 ・視点を「材料費」「他店との比較」「消費者」にしぼり、材料をそろえるのに価格がどのくらいか、他店ではどのくらいの価格で販売されているのか、誰に向けた商品なのかを考えさせ、適切な価格設定を行った。 ③生成 AI の活用 ・生成 AI を活用し、材料費の計算や適切な価格設定に関する助言を与えた。
9 年	社会	①アメリカのハンバーガーショップのメニューを活用した導入 ・アメリカのハンバーガーショップのメニューを紹介し、価格を予想させ、日本円にしたときの価格が日によって変化していることに気付かせた。 ②円高・円安の生活における影響 ・インターネットショッピングや海外で働く人の年収から、多角的に変化する為替相場について、ヒントカードを用いて円高・円安それぞれのメリットから考えさせた。 ・円高・円安が自分の生活にどのような影響を与えるか、身近な事柄を例に挙げて考えさせた。 ③生成 AI を活用した振り返り ・AI を活用し、AI と会話形式で振り返りを行うことで、自分が本当に理解できているのか気付かせた。

2. 実施スケジュール

年度	月	取組内容
令和 6 年度	6 ～ 8 月	・金融経済教育部を設定 ・研究計画立案（教科主任、管理職による協議） ・令和 6 年度に全学年を対象とした金融関係の授業を計画 ・令和 6 年度に 8 年生を対象とした家庭科の授業を計画 ・令和 6 年度に 7 年生を対象とした総合の授業を計画 ・令和 7 年度に 9 年生を対象とした社会（公民）の授業を計画 ・令和 7 年度に 8 年生を対象とした総合の授業を計画
	11 月	・全学年を対象とした総合的な学習の時間の授業を実施 ・詐欺被害防止授業「あなただけの特別なオファー」を実施
令和 7 年度	4 ～ 7 月	・第 7 学年の「ミライマルシェ」において、かすみがうら市の特産品の調査と紹介ポスターの作成、学級内発表を実施
	5 ～ 7 月	・第 8 学年の家庭科で「消費生活・環境学習」を実施 ・5 月末に事前アンケート、7 月中旬に事後アンケートを実施 ・7 月末に学習成果を確認
	8 月 27 日	・金融経済教育指定校としての中間発表をオンラインで実施
	9 ～ 10 月	・第 7 学年で商品開発の価格設定についての学習を開始
	10 月	・第 9 学年の社会科（公民的分野）にて、グローバル経済と金融に関する学習の事前調査を実施
	11・12 月	・第 7 学年では茨城大学の学生と協力した新商品開発やプレゼンテーションの準備を実施
	12 月 5 日	・研究発表会を開催

3. 研究授業学習指導案

①総合的な学習の時間

対象：全学年

教科・科目：総合的な学習の時間

教科書：なし

使用教材：自作教材「あなただけの特別なオファー」、おかねの作文（京都府の野島さんの作文）

【単元名・題材名】あなただけの特別なオファー

【単元の目標】

- ・詐欺の手口や被害の実態を知り、その対処方法について理解することができる。（知識及び技能）
- ・詐欺の被害に遭う背景や心理を分析し、被害を防ぐためにできることを多面的に考察し、根拠をもって表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・詐欺やお金に関する問題を「自分や家族にも起こりうる身近な課題」として捉え、学びに積極的に参加し、自らの生活や将来を見据えて考えようとする。（学びに向かう力、人間性等）

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・詐欺の手口や被害の実態を知り、その対処方法について理解しようとしている。	・詐欺の被害に遭う背景や心理を分析し、被害を防ぐためにできることを多面的に考察し、根拠をもって表現しようとしている。	・詐欺やお金に関する問題を「自分や家族にも起こりうる身近な課題」として捉え、学びに積極的に参加し、自らの生活や将来を見据えて考えようとしている。

【単元の指導計画】

時間	日時	学習内容	使用教材など
1	11月25日	・「あなただけの特別なオファー」を読み、自分事として考えを深める。 ・「おかねの作文」を読み、お金に込められた想いを考える。	・自作教材「あなただけの特別なオファー」 ・「おかねの作文」

【指導と評価計画】

学習活動	指導上の留意点
1 「あなただけの特別なオファー」を読み、オファーを受けるか、断るかについて話し合う。 2 本時の学習課題をつかむ。 自分や家族を詐欺被害から守るために、中学生の今の私たちにできることは何だろうか。 3 実際に起きている詐欺事例について考える。 (1) 高齢者が振り込め詐欺に遭った事例 (2) 高齢者が年金を失ってしまうこと生じる生活への影響の事例 4 「もし自分の家族が同じ目に遭ったらどうするか」考え、意見を共有する。 (1) 自分事として考え、意見を共有する。 (2) 「なぜ高齢者は詐欺に引っかかってしまうのか」について考えを深める。 5 「おかね」の作文を読み、年金に定められた願いを考える。 6 本時の学習の振り返りを行う。	・「特別な手紙」を読み、身近な題材について考える機会を設定する。 ・オファーの内容が「本当かもしれない」「宝くじと同じ」など、揺さぶりをかける。 ・「オファーを断る」という意見に偏った場合には「信じてしまう人はどうして信じてしまうのか」という視点で考えを深めるように促す。 ・高齢者が振り込め詐欺に遭った記事を見せ、詐欺の手口と被害の大きさに気付かせる。 ・年金についての説明動画を視聴し、高齢者における「年金」の大切さを理解させ、考えを深められるように助言する。 ・「もし自分の家族が同じ目に遭ったらどう思いますか？」と問いかけ、生徒に感情移入させ、意見を交流させる。 ・「被害状況」の資料から令和5年度と比べて、預貯金詐欺は100件以上増加していることを伝え、身近な題材であることを押さえる。 ・「おかねの作文」から年金に定められた願いや想いを生徒が読み取れるように発問を繋ぐ。 ・振り返りの記録を積み重ねることができるよう、ICTを活用する。

【授業の様子】



「あなただけの特別なオファー」の内容

差出人：国際特別財団

宛 先：下稲吉 中太郎 様

住 所：茨城県かすみがうら市下稲吉 2273-2

親展・重要なお知らせ

拝啓 下稲吉 中太郎 様

このたび、かすみがうら市立下稲吉中学校に在籍するあなたが選ばれたことをお知らせします。

あなたは「特別な人材」として、国際特別財団からの招待を受けました。選ばれた生徒には、一生に一度の特別な経験が約束されております。

この招待は、以下の条件を満たす方だけが受けることができます。

期日までに指定の場所に来られること

この手紙の内容を他の人に秘密にすること

指定の場所は、あなたが受け取るべき「特別な賞」を準備しています。賞の詳細は当日まで秘密ですが、以前の受賞者には「海外旅行」「特別な奨学金」「最新技術のガジェット」などが贈られています。

期日：11月25日 15:00

場所：〇〇〇〇館

来場の際には、この手紙とあなたの身分証を持参してください。特別な体験を逃さないように、慎重にご準備ください。参加はあなたの権利ですので、慎重にご判断ください。

ご質問がある場合は、このメールアドレス(kokusaidantai@free.com)にご連絡ください。また当日、欠席する場合、この案内を辞退する場合にもご連絡ください。

それでは、特別な日にお会いできることを楽しみにしております。

敬具

国際特別財団 招待委員会 代表 〇〇 〇〇

「おかねの作文」～特選 京都府 野島さんの作文より～

孫を案じる優しい老人の気持ちを踏みにじり、大切な年金を騙し取る、卑怯極まりない手口だ。卑怯な悪事のために、知恵と労力を使う犯人のつまらない人間性を思うと、あわれな感じさえする。お金を得る本当の喜びを知らない人、知ろうとしない人は不幸だ。

警察が丁寧に教えてくれた。身に覚えのないものや、少しでも納得がいけないときには、警察や消費者センターに問い合わせるのが大切だということ。また、近年こうした犯罪が増え、テレビや新聞でも報じている。日頃のニュースに注目しておくことも大切だ。

家にかえって祖母に話すと、祖母が言ってくれた。「亜悠（あゆ）ちゃんがいてくれて、助かった。これからもおばあちゃんを守ってね。」

「おばあちゃん、まかしといて」私は力強く答えた。

②技術・家庭科（家庭分野）

対象：8 学年

教科・科目：技術・家庭科（家庭分野）

教科書：【東京書籍】新しい技術・家庭 家庭分野 p.192～195

使用教材：ワークシート、悪質商法に関するトラブル事例

【題材名】自立した消費者を目指して

【題材の目標】

- ・購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害のその背景とその対応、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。

（知識及び技能）

- ・物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について、問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決することができる。

（思考力、判断力、表現力等）

- ・よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

（学びに向かう力、人間性等）

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・売買契約の仕組み、消費者被害とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理適切にしている。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	・物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

【題材の指導計画】

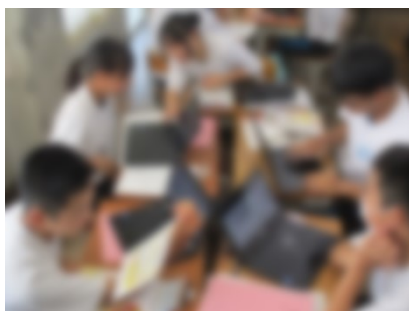
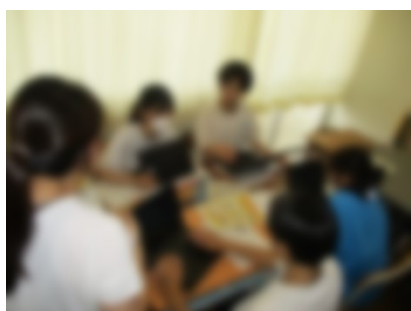
次	時	学 習 内 容 ・ 活 動
1	1	・ 自分の消費生活を振り返り、売買契約の仕組みについて知る。 ・ 未成年の契約について理解することで、消費者としての自覚について考える。
	2	・ 店舗販売と無店舗販売など、様々な支払い方法を比較しながら、商品購入の目的にあった適切な方法について考える。
	3	・ ワイヤレスイヤホンを想定した意思決定プロセスを用いて、複数の商品の中から適切な商品の選択と購入を考える。
	4 (本時)	・ 様々な悪質商法に関するシナリオ作りを通して、未然防止策を考える。
	5	・ 消費者トラブルの事例検討を通して、被害にあった場合の対応策や未然防止策を考える。
2	6	・ 消費者の権利と責任を理解し、消費行動によって社会や環境に与える影響について考える。
	7・8	・ 衣生活と食生活との関連をはかりながら、自らの消費行動が社会に与える影響を理解する。 ・ 責任ある消費行動とはどのようなものかを考え、消費者市民社会の形成のための自分の役割について考える。

【指導と評価計画】

学習活動・内容	・ 指導上の留意点、◎評価【評価方法】
1 本時の課題を確認する。 消費者トラブルを未然に防ぐためには、どのような行動を取るべきなのだろう。 2 悪質商法について知る。 (1) 6つの悪質商法について、イラストからどのような悪質商法か考える。 (2) 教科書から、具体的な手口や販売手口があるのか、調べまとめる。 3 悪質商法について未然防止をよびかけるロールプレイングのシナリオ作りをする。	・ 消費者トラブルとはどのようなトラブルなのか、定義を示すことで本時の学習に見通しをもてるようにする。 ・ 実際に中学生が巻き込まれた消費者トラブルの事例を提示することで、消費者トラブルが身近だということに気付けるようにする。 ・ 悪質商法とはなにか説明することで、消費者トラブルを引き起こす原因の一つであることを理解できるようにする。 ・ 悪質商法について、イラストを最初に提示することで、その後の担当の悪質商法の調べ学習の際に、実際の場面を想像できるようにする。 ・ シナリオ作りについて、ロールプレイングの具体例を示すことで、シナリオ作りの活動に難し

(1) グループでシナリオ作りをする。 (2) 班ごとに作成したロールプレイングのシナリオを発表する。 (3) 悪質商法を未然に防止するための方法を考える。 4 本時の学習のまとめをする。 消費者トラブルを未然に防ぐには、契約に必要な情報を自分自身で見極めることが大切である。 5 本時の振り返りを行う。	さを感じる生徒も具体例を見ながら、話合いに参加できるようにする。 ・シナリオの作成を通して、消費者が断り切れなくなる心理の表現の仕方や、人の心理を突いた誘い文句等を机間指導をしながら助言していく。 ・発表では、多様な発表方法があることを示し、各班で効果的な方法を考えられるようにする。 ◎悪質商法に関するロールプレイングの台本作りを通して消費者トラブルを未然に防止する方法を考えることができる。 (ワークシート) ・本時の学習を踏まえて、主体的な振り返りを促すために、まとめは穴埋め形式とする。 ・振り返りは題材を通して毎時間の振り返りを積み重ねていくことで、前時の学習と本時の学習のつながりを実感できるようにする。 ・本時の学習の成果を整理することで、次時の学習意欲につながるようにする。
--	---

授業の様子



4. 公開授業・金融経済教育研究協議会

【日時】 令和7年12月5日（金）5時間目（13:20～14:10）

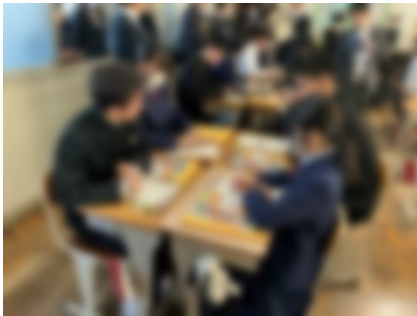
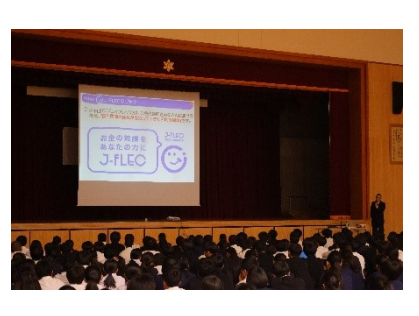
【対象学年および参加者】

公開授業	対象者	33名	7年 総合的な学習の時間
		36名	9年 社会科：公民的分野
	参加者	15名	他校教員、教育委員会指導主事、金融広報委員会担当者
金融経済 教育研究 協議会	参加者	40名	本校教員、他校教員 教育委員会指導主事、金融広報委員会担当者

【当日スケジュール】

受付	13:00 ～13:15	控室（新体育館）
公開授業	13:20 ～14:10	7年3組、9年4組
休憩	14:10 ～14:25	控室（新体育館）
講演	14:25 ～15:15	講師：金融経済教育推進機構認定講師 中田 真 様
金融経済 教育研究 協議会	15:30 ～16:10	開会挨拶 教頭 杉本 高久 茨城県金融広報委員会委員長 政崎 英二 授業検討・協議 指導助言 茨城県県南教育事務所学校教育課指導主事 橋本 武 諸連絡・閉会

【公開授業・協議会の様子】

7年総合	公民科授業	金融経済教育研究協議会
		

【指導案】

⑦ 年総合

1 単元名 子どもミライワークショップ

2 単元の目標

- ・かすみがうら市の特産品を使った商品開発を通して、商品の価格設定における費用計算や競合調査、市場分析を理解し、実際に活用することができる。 (知識及び技能)
- ・かすみがうら市の特産品等を調べ、市のアピールポイントとなる魅力についてポスターにまとめ、相手に分かるように伝えることができる。 (知識及び技能)
- ・市の特産品を使った新商品を考案し、その商品の魅力や価格設定の根拠を分かりやすく説明することができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・かすみがうら市の魅力を調べ、ポスターにまとめる活動を通して、かすみがうら市の魅力を知り、地域に関心をもとうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・かすみがうら市の特産品を使った商品開発を通して、価格設定に必要な費用計算や競合調査、市場分析について理解し、それらを適切に活用している。	・市の特産品等を調べ、アピールポイントとなる魅力についてポスターにまとめ、相手に分かるように伝えている。 ・市の特産品を使った新商品を考案し、その商品の魅力や価格設定の根拠を分かりやすく説明している。	・かすみがうら市の魅力を調べ、ポスターにまとめる活動を通して、かすみがうら市の魅力を知り、地域に関心をもとうとしている。

3 学習計画及び評価規準(24 時間扱い)

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	金融教育の視点	主な評価の観点		
				知 技	思	主
1	1	・総合的な学習の時間のテーマを知ろう。				○
	2 ～ 4	・かすみがうら市の魅力について調べよう。			○	○
	5 ～ 7	・かすみがうら市の魅力をポスターにまとめよう。			○	◎
	8	・発表に向けて、どのように相手にわかりやすく伝えられるのか考えよう。			○	
	9	・ポスターを使って、かすみがうら市の魅力を分かりやすく相手に伝えよう。			◎	
2	10 ～ 12	・商品の価格には、どんな費用が含まれているのか知ろう。	・商品の価格には、どのような費用が含まれているのか理解	○		○

			している。 ・需要と供給が価格にどのように影響するのか理解している。			
	13 ～ 17	・かすみがうら市の特産品を使った新商品を考えよう。	・新商品でこだわる点を明確にし、どの部分に費用をかけるのか考えている。		○	○
	18 (本時)	・クラスで考えた新商品の価格を設定しよう。	・10～12時で学習した知識を話し合いで活用している。	◎	○	
3	19 ～ 21	・新商品をPRするスライドを作ろう。			○	
	22 ～ 23	・発表に向けて、どのように相手にわかりやすく伝えられるのか考えよう。			○	
	24	・スライドを使って、かすみがうら市の特産品を使った新商品をPRしよう。			◎	

4 本時の学習

(1) 目標

新商品の価格設定を通じて、費用計算、競合調査、市場分析といった価格設定の要素を理解し、実際に活用することができる。 (知識及び技能)

(2) 展開

学習活動・内容	・指導上の留意点 ◎評価 ○金融教育との関連
1 東京で1万円するラーメン店の説明を聞く。	・身近な食べ物の値段について触れ、生徒が価格に関心をもつようにする。 ・地価や素材の質、人件費など、価格設定に含まれる費用を確認する。
2 新商品の代表案を考えたグループが、全体に向けて新商品について発表する。 (例) 新商品は「栗パフェ」、栗の質にはこだわりたいと考えている。	○新商品でこだわる点を全体で共有し、班によって費用をかける部分に違いが出ないようにする。
3 本時の課題を確認する。 新商品の価格はいくらが妥当なのだろうか。	・「妥当」という言葉の意味を確認することで、適切な価格を設定していくことをおさえる。
4 グループで話し合い、価格案1を決定する。 ①原価 ・材料費は、栗(50個入り)が2500円、200mLの生クリームが400円、生地が10枚入り500円、包装袋が50枚入り100円かかる。 ・1個あたりで考えると、500円+20円+50円+2円=572円になる。 ②他店の値段との比較 ・A店では650円、B店では540円、C店では900円で販売されている。	・AIにかすみがうら市で仕入れる場合の材料費や他の商品の価格情報を読み込ませ、AIが提案する価格情報に幅が出ないようにする。 ○生徒がグループで分担して事前に調査してきた新商品の材料の価格情報を、原価決定の具体的な根拠として活用できるよう助言する。 ○他店での販売価格だけを根拠にして、低価格に設定している班には、原価も考慮するように助言する。

・販売価格は 700 円にしようかな。 ③消費者の視点 ・自分が栗パフェを買うとしたら、700 円だと少し高い気がするから、650 円にしよう。 ・750 円にしても自分だったら買うかな。 5 グループで決めた価格案 1 を AI に入力し、AI からフィードバックを受け取ったうえで、価格案 2 を決定する。 ・650 円だと利益が出ない。でも 700 円だと買う人にとって高いと思うから、680 円にしよう。 ・質の高い栗を使って味を良くして、価格を 800 円に上げよう。 6 班で価格案をタブレットに入力し、全体で共有する。 ・栗にこだわりつつ、買う人のことも考えて 750 円にしよう。 ・気軽に買って食べられるように 600 円～650 円の価格で販売したいな。 7 AI で振り返りを行う。 8 次時への見通しをもつ。	・「自分が消費者ならば、この金額は妥当なのか」という視点をもてるよう助言する。 ・販売側と消費者側の双方の視点から、明確な根拠に基づいて価格を決定するよう助言する。 ・材料費や他店での販売価格などを AI に読み込ませ、グループの話し合いの助言者としてプロンプトを設定しておく。 ・AI の意見は一意見であることから、根拠をもとに自分たちの理由で価格を見直すように促す。 ・タブレットに価格案を入力することで、他グループの案を共有、比較できるようにする。 ○価格をひとつに決定することが難しい場合には、適切な価格幅を設定することを許可し、生徒の柔軟な思考を促すよう助言する。 ◎かすみがうら市の特産品を使った新商品の価格設定を通して、商品の価格設定における費用計算や競合調査、市場分析を理解し、実際に活用している。【ワークシート、グループ活動】 ○日常生活のどんな場面で今日の学習を活かすことができるのか考えるように促す。 ・次回の授業で、クラスで価格を 1 つに決めることや新商品をアピールするスライドを作成していくことを確認する。
--	--

②9 年社会公民分野

対象：9 学年

教科・科目：社会科公民分野

教科書：東京書籍 公民

使用教材：ワークシート

1 単元名 市場経済の仕組みと金融

2 単元の目標

- ・市場経済における価格の決まり方や資源の配分、生産や金融の働きの基本的な考え方について理解する。
(知識及び技能)
- ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・市場経済における価格の決まり方や資源の配分などの現代の金融などの仕組みや働きなど基本的な考え方について理解している。	・対立と合意・効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。	・市場の働きと経済について現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら主体的に社会に関わろうとしている。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領解説社会編（平成 29 年告示）解説公民分野の内容「B 私たちと経済」の中項目「(1) 市場の働きと経済」を受けて設定するものである。現代の生産や金融などの仕組みや働きに着目し、市場経済の基本的な考え方について理解することを主なねらいとしている。経済活動の意義について、消費生活を中心に学習してきたが、本単元では身近な生活と結びつけて学習していくことで、市場経済の基本的な考え方や現代の生産や金融などの仕組みや働きについて理解できるようにする。

経済活動は日常生活の中で行われていることであり、身近な内容である。さらに、市場の働きや金融の仕組みなどの知識を身に付けることは、将来的によりよい消費者として社会に関わる上で大切な学習であると考えらる。

(2) 生徒観

円高と円安の仕組みについて知っていますか。	知っている	33.3%	知らない	66.7%
効率と公正について、合意するための方法を考えることができますか。	できる	92.6%	できない	7.4%
金融に関する社会の課題についてどのようなものを知っていますか。	・円安 ・経済格差 ・物価高騰 ・地域経済の縮小 ・貧富の差 ・地方金融機関の課題 ・わからない			
資料を自分の言葉で説明することができる。	できる	78%	できない	22%
十分の意見を周囲に説明することができる。	できる	48%	できない	52%

本学級の生徒は、事前調査では、円高・円安の仕組みを「知らない」と回答した生徒が66.7%であり、為替相場に関する知識はないと自覚している生徒が半数以上を占めている。金融に関する社会課題として「円安」「物価高騰」への関心はあるものの、「わからない」と回答した生徒も多く、公民科の授業で身に付けた知識と身近な事象との結びつきが弱いことが分かる。

複数の資料から情報を読み取り、自身の意見を文章にすることについては得意とする生徒が多い一方で、自分の意見を人に説明することに苦手意識をもっている。これらの実態を踏まえて、資料を基に自身の意見を多面的・多角的に考察し、金融が抱える課題について根拠を明確にして説明することができるよう指導していく。

(3)指導観（金融経済教育研究主題「社会の変化に対応できる金融リテラシーを育む金融教育の在り方～金融的事象を自分ごととして捉えることができる課題解決型学習の実践を通して～」）

本単元の学習では、円高・円安という金融的事象を理解するために、身近な事例や時事的な事例を取り上げ、私たちの生活と深い関係があることに気付かせる。生徒の得意とする思考力に着目し、シミュレーション活動を通じて為替相場を「自分ごと」として捉えさせたい。そのために、身近な具体例について根拠を持って説明させる活動を通して、為替相場が生活に密に関わっていることに気付かせる。また、AIを活用することで自身の理解度を振り返りで確認することができるようにする。また、様々な視点に立ち、必要な情報の収集・選択を促し、経済主体として多角的に分析する力を育成したい。

4 学習計画及び評価基準（7 時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学 習 内 容 ・ 活 動	主な評価の観点		
			知 技	思	主
1	1	・身近なものの価格はどのように決まっているのか予想を立て、市場経済における需要量と供給量と価格の関係について確認する。	○		
2	2	・価格が生産や消費を調整する働きを持ち、市場経済と国民の生活に与える影響について資料から読み取る。	○		
3	3	・貨幣が売買や消費を助け、金融が生活を効率よく進めるために役立っていることを、直接金融や間接金融に着目して考察し、表現する		○	
4	4	・銀行の仕組みと働きについて私たちの生活における役割を資料から調べ、読み取る。	○		
5	5	・景気の変動に対して日本銀行が行っている金融政策について、資料から読み取る。	◎		
6	6 (本時)	・経済や金融のグローバル化による私たちの生活への影響について資料を基にして多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現する。		◎	
7	7	・市場経済の仕組みについて市場と金融の働きが家計や企業が効率的に結びつき、金融によって効率的にお金を活用することができることについて確認する。			◎

5 本時の学習

(1)目標

経済や金融のグローバル化による私たちの生活への影響について資料を基にして多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2)展開

学習活動・内容	・指導上の留意点 ◎評価 ○金融教育との関連
1 円高と円安について確認する。 (1) 海外の通販サイトにおける円高・円安の影響について ・食べ物、ゲーム機の値段について1ドル 80 円の場合と 150 円の場合での為替相場を比較する。 ・日本円に置き換えた場合に購入するか、輸出入のしやすさの視点から自分の生活に置き	・前時までの学習内容を確認し、現代の日本の状況について確認する。 ・画像資料を提示し、生徒に値段を予想させることで、身近な事柄として考えさせる。 ○身近にある社会的事象が円高、円安それぞれの状況を自分ごととして考えられるようにする。

換えて考える。 (2) 日本人にとって円安・円高どちらがよい か自分の生活から根拠を持って考える。 2 学習課題を確認する。 円高と円安は私たちの生活にどのような影響 を与えるでしょうか。 3 円高・円安の影響についてシミュレーション を行う。 (1) 海外で働く人にとっての円安の影響につ いて ・大谷翔平の年俸から円高(80円)・円安 (150円)の時を比較する。 ・円安のメリットについて確認することで円 高と比較する。 (2) 多角的に変化する円高・円安の影響につ いて ・個人で自動車関係や観光地で働く人の生活 にとってどのような影響がでるか考える。 ・グループで意見を共有し、どのような影響 が出るか考える。 4 円高・円安が自分にとってどのような影響が あるか考える。 (1) 個人で考える。 ・根拠を明確にして考える。 (2) 全体で共有する。 5 全体で考えを共有する。 円高・円安は状況によって変化し、私たちの 生活を豊かにするだけでなく、経済や金融の面 で課題がある。 6 振り返りを入力する。 ・AIで振り返りを行う。	・自身の生活に置き換えて考えることで、自身の 生活への影響について考察させる。 ・有名な人物を取り上げることで、生徒の関心を 引きつける。 ○円高・円安が日本国内だけに影響するものでは なく、海外との関わりを持つことについて気付 かせる。 ・資料で注目する点を確認し、私たちの生活に関 わりがあるということに気付かせる。 ○円高・円安は業種や経済状況、気候など様々な 状況によって変化するというところに気付かせ る。 ・考えを深めることができるようグループで共有 する時間を設定する。 ・1(2)で行ったシミュレーションの結果と比 較することで円高、円安が日本にどのように関 わるか改めて考えさせる。 ◎経済や金融のグローバル化による私たちの生活 への影響について資料を基にして多面的・多角 的に考察し、自分の言葉で表現することができる。 【ワークシート】 ・生徒の中からグッドモデルを提示することで多 角的な視点で考えることができるように助言す る。 ・振り返りをAIに読み込ませることで、多面 的・多角的な視点から学習内容について確認で きるようにする。
--	---

5. 生徒の感想

①学級活動

- ・詐欺被害に遭わないようにするためには内容をよく確認し、周りに相談することが大切だと分かった。
- ・世の中に甘い話はないということが分かった。
- ・将来的にたくさんの税を払うことを知ることができた。その税はお年寄りになったときに年金としてもらったり、世の中の人役に立ったりしていることが分かった。

②家庭科

- ・普段行っている消費生活には身近にトラブルが潜んでいることが分かった。トラブルにあった場合の対応や未然に防ぐ方法を知ることができたから今後の生活に生かしたい。
- ・消費者トラブルを未然に防ぐためには、その商品に関する情報を事前に確認したり、自分の住む地域で詐欺が多くないかチェックしたりすることと、しっかり断ることと冷静に判断することが大切だと分かった。
- ・ネットのサイトなどで買い物をすることが多いので、レビューを見たり、そのサイトに載っている情報が正しいか確認するなどして、冷静な判断をしていこうと思った。

③公民科

- ・日本が円安だと海外からの観光客が増えたり、海外では日本の自動車などが安くなったり、たくさん買ってくれるということがわかった。
- ・円高と円安は状況によっていい影響も悪い影響も与える事がわかった。
- ・円高になると海外から絵の輸入が安い費用でできるようになるから、日本企業でたくさん商品が生産できるようになるので、消費者の需要に応えられるようになる。逆に、円安になると海外からの輸入にかかる費用が多くなってしまいうので、消費者の需要に応えづらくなると思う。
- ・円高は、円の価値が高いときのことで、円高のとき、円の価値が上がるため、日本人は海外のものを安く買うことができ、消費者としてはメリットが多いと思った。円安は、円の価値が安いときのことで、円安のとき、円の価値が下がるため、日本から海外へ輸出したものが売れやすくなり、企業からしたら円安のほうがいいと思った。

④総合的な学習の時間（7年）

- ・妥当な値段を決めることが難しい。
- ・消費者の気持ちや買う人の気持ちを考えて価格をつける。
- ・価格設定するときに、高くすると手に入りにくく、低くすると利益が得られないことがわかった。
- ・利益のこと、相手の人物像を踏まえて値段をみんなで考えるとすごく難しいことがわかった。
- ・原価を決めて、そこからどう利益をつけていくのかが、班で戸惑ったし、費用とかを加算すると、高くなって消費者からの視点で考えると、手の届きにくい値段になってしまうと思うと、値段を決めるのが難しかった。

6. 教員の振り返り、感想

①学級活動

- ・全校生徒を対象に実施したことで、年金に対する共通理解を図ることができた。
- ・実際に起こりうる状況を設定したことで、生徒の感情を揺さぶることができた。それにより、模範解答では「特別なオファーを受けない」と分かっている生徒も、「もし本当だったら」「騙されてしまう人はどうして騙されてしまうのだろうか」という視点で話し合い活動を行うことができた。

②家庭科

- ・悪質商法のシナリオ作成や事例検討など、生徒が主体的に考え、話し合う活動を取り入れたことで、「消費者トラブルを未然に防ぐためにはどう行動すればよいか」を自分事として捉える姿が見られた。
- ・今回の授業では、班ごとに悪質商法の特徴や対応策をまとめたことで、他班の学びを共有しながら知識を広げることができたと感じる。また ICT を活用した共同的な学びは生徒の意欲向上にもつながったと感じている。
- ・一方で、アンケート結果や振り返りからは、「知識として理解している」段階にとどまっている生徒も見られ、実際にトラブルに遭遇した際に適切に判断し、行動に移す力の育成には課題が残った。特に、「どの相談機関に相談すればよいか」「クーリング・オフ制度が適用されるか」など、状況に応じて知識を活用する力をより具体的に身に付けさせる必要があると感じた。今後は、実際の生活場面をより意識したロールプレイやケーススタディを充実させるとともに、家庭や地域とも連携しながら、学習した内容を日常生活で継続的に活用できるような指導の工夫を行っていきたい。

③公民科

- ・通販サイトや食べ物など身近にある社会的事象を円高・円安という視点から自分ごととして捉える姿が見られた。
- ・円高・円安のメリットについてヒントカードを活用し、資料から読み取った内容を根拠を基に説明する活動において、日常生活や将来の生活を想像しながら自分ごととして考えるために、さまざまな手立てが必要であるということを改めて実感した。
- ・スクール AI の活用において、生徒と AI が会話形式で振り返りを行うことで、生徒が授業の内容を本当に理解できているのか、何を理解していないのかということがはっきりとしたため復習に役立っていたように感じた。

④総合的な学習の時間（7年）

- ・生徒が普段何気なく見ているものの値段には、どのような価格が含まれているのかを考えるきっかけになったと思う。学校での学びが日常生活に生きてくることに気付いてもらえたと思う。
- ・価格設定の細かい部分まで深めていくと 7 年生の生徒にとっては理解が追いつかない部分もあると考え、教員側の方でいくつかの視点にしばったことで理解が進んだ生徒も多かったように感じた。
- ・生成 AI を活用させたり、グループで意見交流の場を設けたりしたことで、価格設定という難しい活動に、生徒がスムーズに入れるようになったように感じた。